

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	八ヶ岳少年自然の家	評価対象年度	令和2年度
事業者名	・事業者名 一般社団法人富士見パノラマリゾート ・代表者名 理事長 名取 重治 ・所在地 長野県富士見町富士見6666番地703	評価者	青少年支援室長
指定期間	平成28年4月1日 ~ 令和3年3月31日	所管課	こども未来局青少年支援室

2. 事業実績

利用実績	①年間延べ利用者数 6,193人 (令和元年度:92,821人)	②年間延べ利用団体数 218団体 (令和元年度:602団体)																														
収支実績	単位:円																															
	<p>1 収入</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>指定管理料</td><td style="text-align: right;">222,682,630</td></tr> <tr><td>利用料金収入</td><td style="text-align: right;">1,659,000</td></tr> <tr><td>環境収入</td><td style="text-align: right;">263,340</td></tr> <tr><td>その他収入(食堂他)</td><td style="text-align: right;">6,323,720</td></tr> <tr><td>合 計</td><td style="text-align: right;">230,928,690</td></tr> </table> <p>2 支出</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>人件費・賃金</td><td style="text-align: right;">88,925,956</td></tr> <tr><td>光熱水費</td><td style="text-align: right;">18,833,655</td></tr> <tr><td>委託費</td><td style="text-align: right;">21,146,131</td></tr> <tr><td>備品購入費</td><td style="text-align: right;">805,760</td></tr> <tr><td>消耗品費</td><td style="text-align: right;">3,857,925</td></tr> <tr><td>商品仕入れ費</td><td style="text-align: right;">6,086,054</td></tr> <tr><td>修繕費</td><td style="text-align: right;">14,833,346</td></tr> <tr><td>その他経費</td><td style="text-align: right;">65,735,350</td></tr> <tr><td>合 計</td><td style="text-align: right;">220,224,177</td></tr> </table> <p>3 差引</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td></td><td style="text-align: right;">10,704,513</td></tr> </table>		指定管理料	222,682,630	利用料金収入	1,659,000	環境収入	263,340	その他収入(食堂他)	6,323,720	合 計	230,928,690	人件費・賃金	88,925,956	光熱水費	18,833,655	委託費	21,146,131	備品購入費	805,760	消耗品費	3,857,925	商品仕入れ費	6,086,054	修繕費	14,833,346	その他経費	65,735,350	合 計	220,224,177		10,704,513
指定管理料	222,682,630																															
利用料金収入	1,659,000																															
環境収入	263,340																															
その他収入(食堂他)	6,323,720																															
合 計	230,928,690																															
人件費・賃金	88,925,956																															
光熱水費	18,833,655																															
委託費	21,146,131																															
備品購入費	805,760																															
消耗品費	3,857,925																															
商品仕入れ費	6,086,054																															
修繕費	14,833,346																															
その他経費	65,735,350																															
合 計	220,224,177																															
	10,704,513																															
サービス向上の取組	利用者にアンケートを行い、意見を取り入れた活動を行っている。また、自然教室のプログラムの一環として、地元農家と連携して田植えや稲刈りの体験を実施するなど、サービス向上に取り組んでいる。																															

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度	事業推進	施設の目的に合った事業が実施されているか	5	3	3
		計画どおり事業が実施されているか			
	事業成果	事業成果として利用者数に増加傾向がみられるか	5	3	3
	(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を講じながら、宿泊者や地域住民を対象とした星空観察のイベントを実施するとともに、新規プログラムとして雨の日でも楽しめる独自のぬり絵クラフト、パズルクラフト、モルックゲームを開発して提供したほか、団体宿泊を通じて、健全な青少年の育成に寄与した。 ・感染症対策として、施設独自のガイドライン策定し、検温サーマルカメラの設置や手指消毒の啓発を積極的に行うとともに、食事の提供方法をビュッフェ方式から個人盛り付けや給食当番方式へ変更した。 ・利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の自然教室の中止や施設の休所を含む施設の使用制限や活動内容の制限、イベント等の中止・延期等を受けて、前年度の利用人数と比べ大きく減少した。(93.3%の減) ・自然教室の中止により、カーペットの張替、部屋のスライド扉の改修、トイレの床改修、談話室の床改修、襖の張替など、利用者に関与した改善を図った。 			
収支計画・実績	適切な金銭管理・会計手続	適切な会計処理がされているか	5	3	3
		計画に基づく適切な収入が確保されているか			
	効率的・効果的な支出	計画に基づく適切な支出がなされているか	10	3	6
		支出に見合う効果が得られているか			
	効率的な執行等、経費削減の具体的な取組がなされているか				
	(評価の理由)	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理・会計手続について、法人の規則等に従い、財務ソフト専用のパソコンによって適切に処理されている。 ・効率的・効果的な支出について、照明のLED化や、漏水配管の補修工事を行ったことにより、光熱水費の削減を進めた。 			

サービス向上及び業務改善	施設・事業の広報	施設や事業が積極的に広報されているか	5	3	3
		広報の方法に工夫が見られるか			
	利用者への対応	利用者に対する接遇が適切にされているか	10	3	6
	学校及び行政機関との連携	事業実施に当たり学校や行政等と連携が図られているか	10	3	6
	利用者ニーズ	利用者ニーズの把握がされているか	10	3	6
把握したニーズが事業運営へ反映されているか					
(評価の理由) ・施設・事業の広報について、施設ホームページのほか、フェイスブックやインスタグラムなどのSNSを使った広報を継続して行った。なお、施設ホームページについては、表示文字の拡大や音声ガイド機能などウェブアクセシビリティの改善を行った。 ・利用者への対応について、接遇マニュアル、苦情対応マニュアルを定めており、利用者に対する接遇を適切に行った。また、自然教室で施設に来られなかった児童・生徒向けに八ヶ岳の楽しさを伝える内容の情報を施設ホームページ掲載するなど、フォローアップを行った。 ・学校及び行政機関との連携について、学校が自然教室の代替事業として実施した木工工作の授業等で使用する木工材料を提供するなど、学校と連携した取組を行った。 ・利用者ニーズについて、利用者アンケートのほか、センターハウスと星の棟に意見箱を設置し、利用者ニーズの把握に努めた。					
組織管理体制	適正な人員配置	利用人員等を考慮し、事業実施に必要な人員が配置されているか	10	3	6
		事業の目的を考慮した適正な職員が採用されているか			
	職員の研修体制	職員のスキルアップを図るために必要な研修等が実施されているか	5	4	4
	個人情報等の取扱	個人情報保護の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	5	4	4
(評価の理由) ・適正な人員配置について、計画的に職員を採用・配置し、利用者が安全・安心に活動できるようにするため、専門知識を有する職員を配置して施設の管理と利用者への指導等を行った。 ・救急救命、食の安全、リスクマネジメントなど施設の運営管理に関する研修を受講し、職員のスキルアップを図っている。職員の実践的な知識の向上と衛生管理体制の強化に取り組んだ。 ・個人情報の取扱いについて、個人情報保護規程を遵守しているほか、全職員を対象に個人情報保護についての研修会を実施した。					
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	5	3	3
		利用者の安全確保			
	防犯対策	施設等の防犯のための工夫がされているか	5	3	3
		緊急時のマニュアル等が整備されているか			
	災害への対応	避難訓練や消防訓練が適正に実施されているか	5	3	3
災害発生時のマニュアル等が整備されているか					
(評価の理由) ・施設・設備の保守管理について、修繕計画を策定して計画的に修繕を実施し、突発的な破損などによる修繕についても迅速に対応した。 ・利用者の安全確保について、感染症対策に関して専門知識を有する看護師を講師として勉強会を実施し、運営面においても、食堂での飛散防止の亚克力ボードの設置や野外調理施設での工場扇の設置による換気の強化など、密集場所における感染症対策を強化して行った。また、日々の活動フィールドの点検と報告を行うとともに、野外炊飯やキャンプファイヤー等、火を扱うプログラムでは、利用者との事前の打ち合わせを行うなど丁寧な対応を行っている。 ・災害への対応については、青少年教育施設と連携し、物資の供給、利用者の安全確保、食事の提供、避難待機場所の確保など、安定的な事業継続連携の再確認と災害時におけるBCP(事業継続計画)を策定し、災害時の連携体制を構築している。					

注) 配点×(評価段階/5)=評価点

4. 総合評価

評価点合計	63	評価ランク	C
-------	----	-------	---

注) 評価点:100点満点。評価ランク:5段階評価

A(80点以上):特に優れている、B(70点以上80点未満):優れている、
 C(60点以上70点未満):適正である、D(50点以上60点未満):改善が必要である、
 E(50点未満):問題があり適切な措置を講じる必要がある

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

八ヶ岳の豊かな自然を活かした様々な事業を展開し、広大な敷地と老朽化の進む施設の管理について、きめ細やかに対応しているほか、浴室用温水ボイラーポンプ、トイレ設備の修理、宿泊室の障子と襖の修理、照明器具の更新など、利用者に直結した修繕を計画的に実施した。

利用者の安全確保に関しては、自然体験活動における安全管理の民間資格取得を進めるほか、外部の野外活動の安全アドバイザーの月1回安全衛生委員会への参画や看護師職員による研修会の実施、保健衛生面の職員への対応指導などにより、継続的に安全衛生や危機管理について職員への意識付けがなされている。

当年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、自然教室の中止や休所を含む施設の使用制限や活動内容の制限、イベント等の中止・延期等を受けて、多くの主催事業が中止となり、利用者数は大きく減少する結果となったが、野外炊事場・食堂の環境整備など感染症対策に配慮した受入体制を整え、自然教室の代替事業としての授業等において、学校と連携した取組を行っていることから、コロナ禍における施設の役割を果たしていると評価できる。

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

平成27年度に発生した事故の教訓を風化させることなく、第4期指定期間においても、引き続き、新型コロナウイルス感染症対策を徹底しながら、事故防止と衛生管理の徹底、アレルギー対策と災害や緊急時の適切な対応など、利用者にとって安全・安心に楽しめる施設となるよう、法人全体で適切な施設の管理運営に取り組むこと。また、感染症の拡大により減少した利用者の回復とその信頼の獲得に努めるとともに、自然教室やスキー教室などの学校との連携事業についても、新しい生活様式を踏まえた連携体制を構築し、改善を意識した更なる事業の充実に取り組むこと。